

2022年度（対象年度：2021）自己点検・評価シート

基準1	理念・目的
-----	-------

■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

<前年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
102	「現代的課題と建学の精神プログラム」を継続して実施する。

<前年度の評価結果（課題事項）>

課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載。該当がない場合は「なし」と記載。 ・昨年度（2020年度）も課題事項として記載しているが、人権啓発の取り組みに関しては、その他の基準（人権啓発）を立てて、基準1（理念・目的）とは切り離し、その取り組みを評価することが望まれる。大学評価支援室と協議いただきたい。【留意点】
--

<【参考】認証評価結果における指摘事項>

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
なし

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価 現状
101	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。 ①建学の精神の設定とその内容 ・目指すべき方向性 ・育成する人間像	A
102	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。 ①建学の精神の普及と醸成 ・学生及び教職員への周知・理解 ・教育・研究・社会貢献における具現化	A

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために従来と異なる対応・対策を行った場合は、その取り組みがどのように点検項目を満たすのかについても併せて説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。
--

101	建学の精神を HP、学生手帳、出講手帳に掲載。建学の精神冊子「龍大はじめの一步」を全学生に配布した。また建学の精神にもとづいた教育理念・目的を定めている。(101①)
101	龍谷大学 SDGs 宣言の策定にあたり、仏教 SDGs 推進協議会に宗教部長および課長が参加して修正案を提示、建学の精神に根ざした宣言文を提言した。(101②)
102	コロナ禍が続いていたことから、すべての法要・講演会をオンラインで配信し、ホームページでアーカイブを公開している。このため継続して視聴が可能となり、多いもので 13,000 再生を超える等、対面のみの開催より視聴数は多い。(101③)
102	構想 400AP および仏教 SDGs の具現化を目指し、教職員対象の「現代的課題と建学の精神プログラム」を 4 回開催した(参加者 29~39 名)。開催後はアンケートをとりプログラムの検証や今後の参考にしている。(アンケートでの参加者評価は高い) (101④)
102	仏教活動奨学金が奨学金のカテゴリーから外れ、新たに仏教活動奨励金として募集した。コロナの影響により、プロジェクト部門応募 8 件、フォトエッセイ部門の応募 16 件。応募件数は減少したが、奨励金により大きな成果を上げた学生グループがあった(Café Rita など)。(101⑤)
長所・特色《箇条書き》*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの	
項目 No.	102 学生だけでなく、教職員への建学の精神の浸透が重要であると考え、教職員を対象とした「現代的課題と建学の精神プログラム」を 2020 年度に引き続いて実施した。
項目 No.	102 講演会、法要において、可能な限りテロップや字幕をつけ、情報保障に努めている。また降誕会と報恩講では学生の協力を得て開始前の解説動画を作成し配信した。
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
項目 No.	102 仏教活動奨学生(宗教部プライズ:プロジェクト部門)で目覚ましい成果を上げる学生(団体)がある一方、計画通りに進捗できない事例がある。
項目 No.	102 「現代的課題と建学の精神プログラム」は毎回ニュースレターを発行しているが、それらをまとめて冊子にすることで、さらなる浸透を図りたい。

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み	*成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
新入生本願寺参拝がコロナのため実施出来ず、代替事業として「龍大はじめの一步」を学生の協力により作成し配信した。学生部によるアンケートでも好評を得た。	

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策(到達目標を含む)
102	仏教活動奨励金について、積極的に募集をおこなうとともに、採択した活動の進捗確認を行いつつ助言を含めた支援をおこなう。
102	コロナ後を見据え、新入生本願寺参拝のあり方の検討を開始する。

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
101	①	龍谷大学の建学の精神(大学ホームページ)
101	②	龍谷大学 SDGs 宣言
102	③	Youtube 宗教部チャンネル視聴数(2021 年度配信分)
102	④	現代的課題と建学の精神プログラム 参加者アンケート
102	⑤	仏教活動奨励金応募採択一覧

総評

建学の精神のもと大学の教育理念・目的を設定し育成する人間像を明示している。各学部・研究科は、教育理念・目的を実現することを目的に設置されている。建学の精神、教育理念・目的は、HP や学生手帳等を通じ社会及び構成員（学生、教職員）に周知している。また 2022 年 2 月に、長期計画「龍谷大学基本構想 400」を具現化し、SDGs の達成に貢献することを誓う「龍谷大学 SDGs 宣言」を公表している。

コロナ禍のため 2021 年度も引き続き、すべての法要・講演会をオンラインで配信し、HP でアーカイブを公開している。結果、対面のみで開催より視聴数は増加している。例えば朝の勤行の視聴数（参加者）は対面式より明らかに多く、建学の精神の浸透・深化を図るためにも継続し実施することが期待される。また新入生本願寺参拝は中止されているが、次年度以降の再開に向けて、参拝のあり方を検討することが望まれる。

「現代的課題と建学の精神プログラム（教職員対象）」を 2020 年度に引き続き実施している（年 4 回）。今後、本取り組みの実績・成果等を評価し、プログラムをブラッシュアップすることが期待される。

仏教活動奨励金は応募件数が減少しているため、応募者数を増やすことが課題である。また奨励金の受給団体（又は個人）の中には、予定どおり計画を進捗できない団体（又は個人）も存在する。当該団体（又は個人）の計画の進捗を確認し支援を行うことが望まれる。奨励金を受けた学生活動（Café Rita）が目的（カフェの運営）を実現したことは、奨励金の成果として高く評価できる。

以上、建学の精神のもと大学の教育理念・目的を適切に明示し、WEB を通じ社会に公表し、また様々な方法で教職員及び学生への周知に努めていると評価できる。

長所・特色《箇条書き》

オンライン等による法要・講演会の開催は、参加者数（視聴数）を増加させており、建学の精神の浸透・深化を図るためにも継続し実施することが期待される

仏教活動奨励金を受けた学生活動（Café Rita）が目的（カフェの運営）を実現したことは、奨励金の成果として高く評価できる。

課題事項《箇条書き》 *各項目に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

新入生本願寺参拝を再開するため、そのあり方を検討することが望まれる。【留意点】

仏教活動奨励金は応募件数が減少しているため、応募者数を増やすことが課題である。【留意点】

奨励金の受給団体（又は個人）の計画の進捗を確認し、目的達成に向けた助言や支援を行うことが望まれる。【留意点】

2022年度（対象年度：2021）自己点検・評価シート

基準1	理念・目的
-----	-------

■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

<前年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
101③	「3つの方針検証委員会」において、全学的な共通の枠組みのもとに継続的に見直し作業を行う。

<前年度の評価結果（課題事項）>

課題事項《箇条書き》	*各項目に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
なし	

<【参考】認証評価結果における指摘事項>

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
なし

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価 現状
101	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。 ①建学の精神と大学の教育理念・目的の連関性 ②大学の教育理念・目的と学部・研究科の教育理念・目的の連関性 ③学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容	A
102	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。 ①学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示 ②教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の教育理念・目的、学部・研究科の教育理念・目的等の周知及び公表	A

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために従来と異なる対応・対策を行った場合は、その取り組みがどのように点検項目を満たすのかについても併せて説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
101① 建学の精神と連関した「龍谷大学の教育理念・目的」を設定している [101a]。	
101② 大学の教育理念・目的と学部・研究科の教育理念・目的の連関性を担保するため、「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受け入れの方針」）を策定の基本方針を設定している [101b]。	
101③ 学部・研究科ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的を示した「教育理念・目的」を設定し、そのもとに3つの方針を定めている。2015年度に「龍谷大学の教育理念・目的」及び「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針策定の基本方針」が策定されたことから、学部・研究科の教育理念・目的と3つの方針の連関性や、3つの方針相互の整合性をあらためて見直すため、全学教学会議のもとに「3つの方針一体的見直し作業部会」を設置し（2016年度第2回全学教学会議〈2016.9.27〉承認）[101c]、作業のもとで検討を重ね、2019年度入学生より新たなDPとCPを適用することとなった（2018年度第6回全学教学政策会議〈2019.1.24〉報告）[101d]。その後、2019年度には、本学における教学マネジメント体制の一環として、全学教学政策会議のもとに「3つの方針検証委員会」を設置した [101e]。さらに、本学の教育活動における内部質保証の取り組みを恒常的かつ継続的に実施するため、「教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上の指針」を定めた。〈2019年度第1回全学教学政策会議（2019.4.25開催）承認〉[101f]。2021年度には「龍谷大学アセスメントプラン」を定め、学修成果・教育成果にかかる情報の把握・可視化を行い、かつ適切に検証・改善するための指標とし、恒常的に教育活動の検証と改善を行う体制を構築した[101g]。 「3つの方針検証委員会」では、「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受け入れの方針」について、全学的な見地からの確認および修正を行っている[101h][101i][101j]。	
102① 学部においては学部毎に、短期大学部及び研究科については、学科（専攻）毎に、学則において適切に明示されている [102a]。	
102② 本学の教育理念・目的、学部・研究科の教育理念・目的等については、各学部・研究科の履修要項や学生手帳、出講手帳、大学HPにおいて確認することが可能となっており、教職員、学生、社会に対して適切に公表されている [102a,b,c,d,e,f,g,i]。周知の方策については、教員に対しては、年度始めの教授会や研究科委員会で、学生に対しては履修登録説明会等でなされている。	
長所・特色《箇条書き》*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの	
102②	「教育理念・目的」については、履修要項・学生手帳・出講手帳・大学HPなど多様な方法で公表し、年度始めの教授会や研究科委員会等で確認している。
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
101③	「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受け入れの方針」について、全学的見地からの確認及び一部修正等を行った[101h]。また、恒常的に教育活動の検証と改善を行うため、学修成果・教育成果にかかる情報の把握・可視化を行い、かつ適切に検証・改善するための指標として「龍谷大学アセスメントプラン」を制定した[101f]。
102①	学部・研究科の「教育理念・目的」については、毎年度初めの教授会等で変更の有無について確認がなされ、適切性が確認されている。[102c]

102② 学部・研究科の「教育理念・目的」等の変更については、媒体間で齟齬が生じないように、教学部及び当該学部・研究科が連携し、学部については履修要項の共通原稿を作成するなどして確認を行っている。

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
101③	「3つの方針検証委員会」を中心とした恒常的に教育活動の検証・改善体制のもとで、継続的な見直しをはかる。

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
101	a	龍谷大学の教育理念・目的 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html
101	b	学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html
101	c	3つの方針一体的見直し作業部会の設置について（提案）<2016年度第2回全学教学会議 資料>
101	d	各学部等における「卒業認定・学位授与の方針」（DP）及び「教育課程編成・実施の方針」（CP）の見直し結果について（報告）（2018年度第6回全学教学政策会議<2019.1.24>資料）
101	e	「3つの方針検証委員会」の設置について（提案）<2019年度第1回全学教学政策会議>
101	f	「教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上の指針」の策定について（提案）
101	g	2021年度第2回3つの方針検証委員会資料（抜粋）
101	h	2021年度第1回～第3回 3つの方針検証委員会 議事録
101	i	2021年度第1回3つの方針検証委員会資料一式
101	j	2021年度第3回3つの方針検証委員会資料_一式
102	a	龍谷大学学則（抜粋）
102	b	龍谷大学大学院学則（抜粋）
102	c	龍谷大学短期大学部学則（抜粋）
102	d	2021年度 各学部履修要項
102	e	2021年度 各大学院研究科履修要項
102	f	2021年度学生手帳
102	g	2021年度出講手帳
102	h	大学の教育理念・目的、学部・研究科の「教育理念・目的」 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html

II. 評価結果

総評
<p>本学は、建学の精神に基づく「龍谷大学の教育理念・目的」を定めている。また学部・研究科は、『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針に基づき、各学部・研究科の教育理念・目的、3つの方針（学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針）を策定し、大学の理念・目的との関連性を担保している。したがって、大学の教育理念・目的と各学部・研究科の教育理念・目的、3つの方針（「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」及び「入学者受入れの方針」）は適切に関連していると評価できる。</p> <p>また学部・研究科は、年度初めの教授会等において「教育理念・目的」の変更の有無を確認している。本学の教育理念・目的、学部・研究科の教育理念・目的等は学則に明示するとともに、Webや履修要項等の多様な方法で教職員及び学生並びに社会に周知しており、適切に公表しているものと評価できる。</p>
長所・特色《箇条書き》
毎年度、教授会等が「教育理念・目的」等の変更の有無を確認している。
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載